

第2回 伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)1月19日 18時00分～19時30分		
場所	伊那北高等学校同窓会館		
出席	懇話会構成員27名		
欠席	なし		傍聴者 14名
事務局	伊那北高校	山岡教頭(事務局長), 大石教諭, 倉石教諭, 斎藤教諭, 関講師	
	伊那弥生ヶ丘高校	藤澤教頭(副事務局長), 唐澤教諭, 濱田教諭, 春日教諭, 原教諭	
	県教育委員会	駒瀬高校再編推進室長, 上原主幹指導主事, 久保村主任指導主事, 石井主事	
当日資料	説明会資料, 第1回懇話会まとめ, 講演会資料		

会議事項

- 第1回懇話会報告
- (1)オンライン講演「これからの高校に期待される学力」講師 上智大学総合人間科学部 教授 奈須正裕氏
(2)質疑応答及び意見交換
- 連絡事項 校地検討会議について

構成員から出された主な質疑及び意見 (→ 奈須正裕氏 ご回答)

【学力の質】

・学び、学力、知識の質の変化が始まっているという。先生の言う学びの質は今後変わらないという認識か。
→新たな学びのあり方は、日本だけでなく海外も同様の方向で動いている。

【伊那の企業(地域)と高校の関わり】

・コンピテンシーベースということで、求められるものが変化してきており、取り扱われるテーマも幅広く、高校の教室内だけ、教員と生徒だけ、という枠組みを大きく超えてきている。地域には、多くの高校があり様々な企業がある。社会人が高校の学びに様々な場面で関わっていくことも必要と考えるが、企業との関わりはどうあるべきか。
→地域企業や研究機関、事業所の力を借りることで生徒が様々な刺激を受け、教科で学んでいることが実社会でどう使われるのか、どう生かせるのかを学ぶことができる。

【コミュニケーション力】

・新規採用をするとき、最近はコミュニケーション能力を重要視するが、実際使えると言われると難しいことも多い。その場で合わせることは大変良くできるが、問題に直面した時に自分なりに整理解決していくことが難しい。高校の時だからこそできることについて何う。
→多様な他者と協働しながら実際の問題を解決する力がコミュニケーション能力であり、その質が問われてくる。どのようにカリキュラムや授業に反映させるかを考えていく必要がある。

【教育改革】

・現在の状況を踏まえると、高校だけに多くの期待をしても難しい。高校を考えることは、義務教育を考えなおすことにもつながる。今までの積み重ねが新たな改革に繋がる。
→高校と共にある義務教育学校も歩調を合わせていくことが適切な接続性の保持、一貫的な学び、生徒の伸びに繋がる。
・日々の授業の質をどう高めていくかに尽きると考える。新学習指導要領で各教科の目標がかなり統一されたが、中学・高校と継続的な授業展開や、授業づくりに対する考え方をどう変えていくかが課題。また、新校では、教師が様々な授業形態に対応することが必要と考えるが、学校としてのカリキュラムをどうマネジメントするのか、シラバスより生徒の身についたものは何なのかといったことを、PDCAサイクルを重視しながら学校経営を進めていくことが必要と考える。
→探究に関して、伊那小学校や諏訪の高島小学校が日本の探究学習の源流。カリキュラムでいえば「探究」を学校設定科目でどうつくっていくかが課題。科目の総枠、教員数など学校全体のリソースの配分が必要。

今後の検討課題

第1回(県教委からの説明)、第2回(奈須正裕先生講演)、次回第3回(高校生による意見発表)を踏まえた伊那新校の学びのイメージについての意見交換